

収容期間 昭和二十年八月から二十三年十月ま

で三年二カ月

十、帰国後の生活

国鉄就職、昭和六十一年定年退職

シベリア抑留記

岐阜県 藤井文一

生年月日 大正十四（一九二五）年七月十七日生

まれ

現住所 岐阜県加茂郡白川町黒川

昭和二十（一九四五）年二月十一日

兵庫県加古川市青ノ原

岐阜、愛知、三重の混成部隊として集

結

同年 二月十八日

博多港より釜山に上陸

朝鮮經由で北満、孫呉に到着

軍隊生活わずか六カ月で終戦を迎える。

八月末にブラゴエシチェンスクを経由して入ソ、チタ周辺の収容所を転々とした。

抑留中の作業は、製材工場、鉄道工事、伐採作業、農業等何でもやった。今思い出しても、よく命があつて帰国できたものだと思う。体力、気力のない者が犠牲になった。こんなところで死んでたまるものかと頑張った。

元気なうちに亡き戦友のお墓参りをしたいと考えていてもなかなかそれが果たせずに申し訳ない。安らかな冥福を祈っている。

二十三年四月、「明優丸」で帰国した。幸い家族にも恵まれ幸福な毎日であり、神に感謝している。